
バカと天才？たちと召喚獣

SHIN.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと天才?たちと召喚獣

【NZコード】

N1068Z

【作者名】

SHIN.

【あらすじ】

科学とオカルトと偶然によって開発された「試験召喚システム」を試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こした文月学園。そこに一年の振り分け試験直前に転校してきた7人の天才?とFクラスのバカたちとAクラスの優等生たちが繰り広げる学園物語です。この作品が処女作ですので駄文+亀更新になるかも知れませんがそれでもよければ読んでください。

プロローグ（前書き）

はじめまして、SHIZU・と申します。

文才もなく、駄文になるかもしれません、よろしくお願ひします。

プロローグ

振り分け試験日

明久 side

時刻8時55分

「おはよーございます鉄・・・西村先生！」

鉄人「吉井、遅刻・・・なぜそんなにボロボロなんだ？」

「いやーくる途中にチンピラに絡まれてる女の子を助けてたら遅れちゃつて～」

鉄人「くだらん[冗談はいいから早く服を着替えて試験会場に行け（まつたくこのバカは・・・）」

「はーい！」

僕は校門前で鉄人に挨拶してから、更衣室で体操服に着替えてから試験会場へ向かった。

「おはよー雄二ー」

雄二「ん？遅かつたなバカ久」

明久「来て早々人を罵倒しないでよ！僕はバカじゃないしー雄二も大差ないじゃないか！」

康太「・・・振り分け試験の日に遅刻する奴なんてバカしかいない」

島田「仕方ないわよ、吉井はバカなんだし」

「みんな酷い！これにはひじょに深い訳が・・・」

秀吉「まさか振り分け試験のときに遅刻とはのう・・・

「だからちがうつてば！」

雄二「なら何故遅刻したんだ？」

「それには深い事情があつて・・・」

雄二・秀吉・康太・島田「――（・・・）寝坊（だな！）（じや

な！）（ね！）」「」

「待つて！まだ何もいつてないよね！？」

大島先生「次の教科の試験始めるから全員席に着けよー」

振り分け試験終了後

「これならCクラスくらいいけたんじゃないかな？」

雄二「安心しろ明久、お前はFクラスで確定だ」

「なんだと！10問に1問は書けたはずだから口にはいつてるはずだ！」

4人（（（やつぱり吉井はバカだな）））

明久「みんなどうして僕をあわれむような目でみるの？」

明久 side out

優璃 side

優璃家にて

時刻20時30分

「ハア・・・（今日の朝、変な人たちに絡まれていた私を助けてくれた人・・・たしか文月学園の制服着てたよね？ならまた会えるかな？）」

葵「どうかしたの？優璃」

「ううん、なんでもないよ！」

葵「それならいいけど」

「それより葵、振り分け試験受けなくてよかつたの？」

葵「いいのいいの、私は演劇ができればどのクラスだつていいし、

麗奈も心配だしね」

葵は笑顔でそう答えた。

麗奈「・・・『めんなさい』

葵「麗奈が謝る」とはないでしょ」「

「そうだよ」

麗奈「・・・でも」

葵「気にしないの、それに和くんもFクラスだから」「え？和くんはAクラスのボーダー越えてたはずだけど・・・」

麗奈「・・・和くん寝坊したんだって」

「なにやつてるの和くん・・・」

葵「まさか振り分け試験の日に寝坊するとは・・・」

ピンポーン

「誰かな？」

葵「ちょっとといつてくるね

和哉「お邪魔します」

葵「噂をすれば・・・だね」

和哉「??」

「寝坊くん、どうしたの？」

和哉「うつー？どうしてそれを」

「葵から聞いた」

和哉「葵さん！どうしてしつてるんですか、今日試験受けてないでしょー？」

「寝坊くん、どうしてしつてるんですか、今日試験受けてないでしょー？」

葵「学園にいる知り合いに聞いたんだよ、小学生が振り分け試験に遅れてきたって」

和哉「小学生じゃない！」

「試験の前の日に夜更かしして寝坊するくらいだから説得力ないけどね～」

和哉「・・・（シクシク）」

麗奈「・・・ところで優璃は大丈夫なの？」

「私は多分問題ないとおもうけど」

麗奈「・・・優璃とも一緒にクラスがよかつた」

「来年は同じクラスになれると思うよ、麗奈も頑張ってるし」

麗奈「・・・来年はみんなでAクラス」

葵「そういえば、宗くんと薰ちゃんと蓮くんは？」

麗奈「……薰は問題ないって言つてた」

「宗くんと蓮くんは特例で別の日に振り分け試験受けたらしよ」

麗奈「……あの3人はAクラス確定のはず」

葵「そうだね～」

「そういうば次の登校日つていつだっけ？」

葵「たしか始業式の日だよ」

「そうだつたね、はやく学園に行きたいんだけどね（あの人には早く会いたいし）」

葵「そうだね。さてと、それじゃあ麗奈の日本語の勉強でも手伝つよ」

麗奈「……ありがと」

「和くん……いつまで泣いてるの……」

和哉「……僕は小学生じゃない……（シクシク）」

第1話&1t；転校生たちと自己紹介&go+；

明久 side

鉄人「遅いぞ！吉井！」

「おはようございます西村先生！」

鉄人「吉井・・・おはようございますじゃないだろ？」「

「え？ えーっと・・・今日も肌が黒いうえに暑苦しいですね？」

鉄人「お前は遅刻の謝罪より、俺を罵倒する事と肌の色の方が大事なのが？・・・まあ良い、受け取れ」

「掲示板とかに張り出したほうが楽しいですか？」

鉄人「まあそれもそうなんだがな、ウチは試験校として有名だからな色々問題があるんだ」

「へえ～、さて何クラスかなっと（きつと口くらいは・・・）」

もらつた封筒の端を破き、中に入つていた紙をみると。

『吉井 明久・・・Fクラス』

二年Fクラスの前。吉井明久は躊躇していた。

「遅刻なんてして、みんなの印象悪くなつてないかな・・・？」「なんて考えすぎだよね！」

軽快に扉を開けて入つた。

「すいません。ちょっと遅れちゃいました」

雄二「早く座れこのウジ虫野郎！」

（・・・へ？）

雄二「聞こえなかつたのか？ああ？」

（それにしてもなんて物言いだろ？ いくら教師でも失礼すぎる。）
僕はにらみつけるように教壇に立つて いる教師を見た。

「・・・雄二、何やつてんの？」

教壇にいたのは明久の悪友、坂本雄一だつた。

雄二「先生が遅れてるらしいから代わりに教壇に上がつてみた、なんか転校生がこのクラスに来るらしいぞ」

明久「そうなんだ」

F「――なに――!? 転校生だとおおおお――?」

F「男か!? 女か!?」

雄二「男子一人、女子二人らしいぞ」

F「――女子がくるぞ――!!」

F「――うおおおおお――!」

「で、何で雄二が先生の代わりを?」

雄二「一応このクラスの最高成績者だからな」

「え? それじゃ、雄二がこのクラスの代表なの?」

雄二「ああ、そうだ」

(雄二さえ説得すればこのクラスは僕の思いどおりに・・・)

雄二「これでこのクラスの全員が俺の兵隊だな」

(考えることは、同じなんだな)

「それにもさすがはFクラス。ひどい設備だね」

Fクラスの面々はみんな床に座つていて。椅子なんてものはないらしい。

福原先生「えーと、ちょっと通してもらえますかね?」

そこには寝癖のついた髪によれよれのシャツを貪相に着た、いかにもさえない風体のオジサンが居た。

このクラスの担任だ。

福原先生「それと席についてもらえますか? HRを始めますので」
僕と雄二がそれぞれ返事をして席に着く。

先生は明久たちを待つてから壇上でゆっくりと口を開いた。

福原先生「えー、おはよつ!」ざこます。一年F組担任の福原慎です。
よろしくお願ひします。」

福原先生は黒板に名前を書こうとして、やめた。
チヨークすらまともにないみたいだな。

福原先生「皆さん全員に卓袱台と座布団は支給されますか？不備があれば申し出てください」

F「せんせー、座布団に綿が入つてないです」

福原先生「我慢してください」

F「せんせー、卓袱台の足が折れました」

福原先生「ボンドで直してください」

F「せんせー、窓が割れて隙間風が寒いです」

福原先生「ビニール袋とセロハンをあげますから直してください」

（・・・・・ひどすぎる）

福原先生「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやつてもらいましょう。一ノ瀬君、川崎さん、水無月さん、入つてきてください」

福原先生がそう言つと、転校生の3人（小学生の男の娘と長い黒髪を後ろで束ねている女の子とセミロングの金髪の女の子）がFクラスに入つてきた。

福原先生「まず、一ノ瀬君。軽く自己紹介してください。」

和哉「えつと、一ノ瀬 和哉といいます。趣味は絵を描くことです。一年間よろしくお願いします」

F「どこからどうみても小がく・・・ひつ！？」

（な・・・なんだこの殺氣は！？）

和哉「僕は小学生じゃないですので間違えない様にお願いします（ゴゴゴゴゴ・・・・）」

一ノ瀬君は黒いオーラを出しながらF生徒にそう言つ放つた。

福原先生「つつ次は、川崎さん。自己紹介を。」

葵「川崎 葵です。部活は演劇部に所属する予定です。一年間よろしくお願ひします。」

長い黒髪を後ろで束ねている子がそう言つた。

秀吉「葵殿ではないか！？どうしてここにいるのじや？」

「秀吉の知り合い？」

秀吉「まあ、そんなところじや」

葵「あ、秀吉君もFクラスなんだ？」

秀吉「うむ。しかし葵殿はAクラス確実の成績だったはずじゃが？」

葵「麗奈が心配だったから。振り分け試験受けなかつたんだよ。」

福原先生「えー、雑談は後にしてくれださい。」

葵「あ、すみません」

福原先生「水無月さん、自己紹介を」

麗奈「・・・はい。・・・水無月 麗奈です。・・・・・よろしくお願ひします。」

と、綺麗な金髪の女の子が言った。

F「質問いーですかー？」

麗奈「・・・はい」

F「親が外国人なんですか？」

麗奈「・・・母がイギリス人」

葵「ちなみに最近までイギリスにいたから、少し日本語が苦手だから話すときはゆっくり話してあげてね」

（帰国子女か・・・島田さんと同じで大変なんだろうなあ・・・）

福原先生「次は、廊下側の人から自己紹介をお願いします」

秀吉「木下 秀吉じや。演劇部に所属しておる」

（秀吉、今日もかわいいなあー）

秀吉「よく間違われるが僕は女子ではなく男子じや・・・」

和哉（木下君も苦労してるんだね・・・）

康太「・・・土屋 康太・・・特技は盜む・・・特
にない」

和哉（・・・聞かなかつたことにしよう）

島田「島田 美波です。海外育ちで日本語は会話は出来るけど読み書きが苦手です。趣味は吉井 明久を殴ることです」

明久「誰だ！ そんなピンポイントで危険な趣味を持つてる子は！？」

和哉・葵（（あの子とはあまり関わらないほうが良さそう））

あとは名前をいうだけというのが続き、明久の順番までまわってきた。

「コホン。え、つと、吉井明久です。気軽に『ダーリン』と読んでくださいね」

日記一覧

（清い魔力たゞ、呪詛が止まらない）

漢が自ら昭仁を終えぬ……

姫路「あの、遅れて、すみま、せん・・・」

F X 4 1 「え？」

福原先生、ちょうど好かったです。今自己紹介をしているところなので、姪ちゃんもお願ひします。

姫路「は、はい！
あの、姫路

します！」

F 「はい、質問です！」

姫路「あ、はい。なんですか?」

「どうしているんですか？」

卷之三

F「そういえば、俺も熱（の問題）が出たせいでFクラスに」

F 「ああ、化学だろ？」
あれは難しかつたな」

F 「俺は弟が事故に遭つたと聞いて、実力を出し切れなくて」

F 「黙れ1人っ子」

前の番、彼女が寝かせてくれなくて、

田・今年一番の大喰をありかどニ

（僕以外もみんな力はないらしい）

彼女は席に着くや否や、安堵の息をついて卓袱台に突つ伏してしま

う。

「姫路さん、体調はもう大丈夫なの?」

姫路「あ、吉井君。だいぶ良くなりましたよ。」

「そっか、よかつた」

福原先生「はいはい。静かに・・・」

バンバン！・・・・バキッ！

教卓が木つ端微塵になつた。

（さすがに酷すぎるよ）

福原先生「え～。代えを持つてきますので、皆さんは自習をしてくださいね」

「・・・ねえ雄一、ちょっと良い?」

雄二「ん?なんだ?」

和哉（おもしろそうだから、盗み聞きしようかな）

雄一を伴い廊下に出た。

姫路「吉井君、どうしたんでしょうか?」

葵「姫路さん、吉井君が気になるの?」

姫路「え?、えっと」

葵「川崎 葵です。姫路さん、よろしくね。」

麗奈「・・・水無月 麗奈」

姫路「い、いぢぢぢーそよろしくお願ひします」

廊下にて。

「ねえ雄一、試合戦争を仕掛けでみない?」

雄二「この前学校の設備などどうでもこいつてこいつてなかつたか?・・・・姫路のためか?」

「ち、違うよ!?」

雄二「素直じやねえな。まあどうせ、試合戦争はやるつもりだった。世の中学力こそがすべてじゃないって事、その証明がしてみたくて

な」

和哉（新学期初日から仕掛けるのか・・・ま、とりあえずは）クラス代表の手腕をみせてもらいますか

雄二「先生が戻ってきたみたいだし、戻るぞ

再び教室にて。

福原先生「えーと、坂本君キミが最後ですよ。クラス代表でしたよね？前に出てきてください」

雄二「了解、Fクラス代表の坂本雄二だ。代表でも坂本でも好きなように呼んでくれ」

雄二「コホン。さて、皆に一つ聞きたい。・・・Aクラスは超豪華待遇らしいが・・・不満はないか？」

F×41「大アリじゃあッ！」

雄二「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ！」

F「いくら学費が安いからってこの設備はあんまりだ！」

F「Aクラスだつて同じ学費だろ！？」

F「改善を要求する！！」

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思つ！」

雄一「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」

F「そんなの勝てるわけがないだろ？」

F「これ以上設備が落ちたらどうなるんだ」

F「姫路さんがいたら何もいらない！」

F「麗奈さんがいるだけで僕は満足です！」

雄一「そんな事はない、必ず勝てる。いや俺が勝たせて見せる」

F「無理に決まってやるじゃん」

F「そう言われても何の根拠もないしなあ・・・」

雄一「根拠ならあるわ。」のクラスには勝つことのできる要素が揃っている

雄一は自信ありげにそう宣言した。

雄一「おい康太、今まで姫路と川崎、水無月のスカートを覗いてるんだ」

3人は素早くスカートを押さえた。

雄一「土屋 康太 こいつがあの有名な寡黙なる性職者だ」
〔ハツリーニ〕

そういうと康太は首を横に振った。

F「馬鹿な・・・奴がそうだというのか？」

F「見ろ！まだ証拠を隠そうとしているぞ・・・」

F「ああ、ハツリの名に恥じない姿だ」

雄一「それに姫路の事は皆その実力をよく知っているはずだ」

姫路「え？私ですか？」

（姫路さんは学年トップ5に入っているほどの学力だからね～）

雄一「ああ、ウチの主戦力だ期待している」

F「そうだー俺達には姫路さんがいる！」

F「彼女ならAクラスにも引けをとらない！」

雄二「それに木下 秀吉だつている」

秀吉「ワシもか？」

F「演劇部のホープ！」

F「確かにAクラスに木下 優子つていう姉がいただろ」

雄二「そのほかにも島田もいる」

島田「えつウチ？」

雄二「島田は数学だけならAクラスにも匹敵する。当然俺も全力を尽くす」

F「坂本つて小学校の頃『神童』とか呼ばれてたんだり」

F「確かになんかやれそうな気がしてきたぞ」

F「これはいけるんじゃないか！？」

F「よし…やつてやろうじやねーか！…」

教室の士気が高まつていつたが…

雄二「それに吉井 明久だつている」

シーン…

F「誰だよその吉井 明久つて」

「雄二。何でそこで僕の名前をだすのさ…？せつかく上がった士気が台無じじゃないか！」

雄二「そうか、知らないのなら教えてやる。」この肩書きは『観察処分者』だ！！

F「確かに観察処分者つて『馬鹿の代名詞』じゃなかつたつけ？」

「ちつ違うよ…！ちょっとお茶目な16歳の愛称で…」

雄二「そうだ『馬鹿の代名詞』だ」

「肯定するなバカ雄二…！」

姫路「あのそれってどういうものなんですか？」

雄二「観察処分者つていうのは具体的には教師の雑用係だな。力仕事とかの雑用を特例として物に触れるようになつた召喚獣でこなすんだ」

姫路「それって凄いですね！試験召喚獣つて見た目と違つて力持ち

らしいです

姫路さんが僕に期待の眼差しを向けている。

「あはは。そんな大したものじゃないよ。確かに僕なんかの点数でも召喚獣の力はかなり強いけど、その時受ける召喚獣の負担の何割かは僕にファードバツクされるんだ。皆と同じで教師の監視下でしか呼び出せないし、僕にメリットもないしね」

「おいおい、おつづきがやられたらどうしよう」と、

「事じやん」
「たよな・・・それならおしゃれと云々喰てきなしゃツかしる」
「

雄一「気にするな！明久はいてもいなくとも大して変わらん雑魚だ」
「・・・雄一そ」は僕をフオコリすると二ろぞよな・

葵「坂本君、さすがに酷すぎない?」

川嶋さん

「葵さん……ありがとう」

雄一「まずは俺達の力の証明としてまずDクラスを制圧しようと思つ。皆この境遇に大いに不満だろ?」

雄一 な、全員筆を執れ!! 出陣の準備だ!!

姫路さんも恥ずかしげに手をあげていた。

「ねえ雄一今字が間違つてなかつた? それに下位勢力の使者つ

雄一「大丈夫だ
駄されだと思って行つて来い」

「えっ？ 一ノ瀬君に水無月さん、いいの？」

和哉「和哉でいいですよ」

麗奈「・・・麗奈でいい」

「ならこっちも明久でいいよ。それじゃあ行こうか、和哉君に麗奈

ちゃん」

和哉・麗奈「（・・・）はい」

こうして3人でDクラスに向かった。

オリキャラ紹介（1）（前書き）

タイトルの通りオリキャラ紹介です。

オリキャラ紹介（1）

名前：神谷 優璃 性別：女

読み：かみや ゆり

誕生日：7月10日

身長：153cm（B）

所属クラス：2-A（代表）

得意教科：英語

苦手教科：数学

趣味：読書・ゲーム

特技：料理

外見：髪色・髪型は霧島にそっくりだが、体格は霧島よりややスレンダーで、顔は綺麗というよりは可愛い系。

性格：恥ずかしがり屋だが、意外と頑固者。人を見下す奴が大嫌い。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・明久と同じマンションに（川崎 葵）（水無月 麗奈）と共に住んでいて隣同士。
- ・実は大財閥のご令嬢。

*

名前：川崎 葵 性別：女

読み：かわさき あおい

誕生日：4月17日

身長：156cm（C）

所属クラス：2-F

得意教科：古典・現国・英語

苦手教科：数学・物理・化学
趣味：演技の練習、演劇鑑賞

特技：演技、声帯模写

外見：黒髪長髪を後ろでくくっている。美人ではあるが、男の子より演劇命なので、モテてはいるものの、すべて断っている。

性格：温厚な性格だが、友達や演劇をバカにされると人が変わったかのように怒りを表す。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（水無月 麗奈）と共に住んでいて隣同士。
- ・秀吉とは少しだけ面識がある。
- ・振り分け試験は（水無月 麗奈）があまりにも心配だったため、わざと受験しなかった（実は総合科目で霧島 翔子よりも上の成績を出せるほどの学力がある）。

*

名前：水無月 麗奈 性別：女

読み：みなづき れな

誕生日：2月21日

身長：155cm（B）

所属クラス：2-F

得意教科：英語・数学・化学・物理

苦手教科：それ以外（半分近くは一桁）

趣味：料理・お菓子作り

特技：料理・お菓子作り・裁縫

外見：髪は肩にかかるくらいの金髪で、顔は目鼻立ちもよく、前いた学校ではファンクラブができるほどの美女。

性格：重度の人見知りで、Fクラスでは基本的に、葵・和哉・明久・

秀吉以外とは基本は話さない。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・生まれてから人生のほとんどを外国で過ごしているため、日本語がほぼわからない。（普段の会話程度ならなんとかなる。）
- ・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（川崎 葵）と共に住んでいて隣同士。
- ・振り分け試験は問題がほとんど読めないため、Fクラス入り。

*

名前：一ノ瀬 和哉 性別：男

読み：いちのせ かずや

誕生日：3月26日

身長：141cm

体重：30kg

所属クラス：2-F

得意教科：物理・化学・数学

苦手教科：日本史・世界史・古典

趣味：読書・絵を描くこと

特技：絵を描くこと

外見：髪色・髪型は明久によく似ている。顔は小学生の男子から告白されるほど。その体格のおかげで、制服を着てても小学生にみられるほど。

性格：見かけによらずしつかり者でちょっと腹黒い一面も。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・文月学園の3-Aクラスに異母兄弟の姉と兄がいるが、とある出来事以来、離縁状態。
- ・振り分け試験は遅刻し得意教科の理系3教科を受験できず、Fクラス入り。

第3話&17・作戦会議&part.1(前書き)

最近急に寒くなつてきたりと風邪気味です・・・

「ただいま雄一、ロクラスに宣戦布告してきたよ

雄一「おい、明久ちょっとといいか?」

「ん? どうしたの雄一?」

雄一「いや、ぶっちゃけお前が酷い目に遭うと思つていたんだが…」

「ああ、うん。和哉君が嘔泣きでもしてロクラスの人たちの気をそらしてくれなければ絶対酷い目に遭つたね。」

雄一「まあいい(無事だつたか)、今からマーティングを行う! 明久、宣戦布告してきたんだな」

「一応、今日の午後に開戦予定と告げてきたけど」

葵「じゃあ、先にお昼ご飯だね」

雄一「せつするか。明久、今日ぐらはまともな物食べよう?」

「やつ思うならパンでもおいじりよ」

麗奈「…明久君のお昼ご飯食べない人?」

「いや…一応食べるよ」

秀吉「…あれば食べると言えるのかの?」

康太「…明久の主食は水と塩」

「失礼な!! 僕をバカにするのも程がある! きちんと砂糖も食べてよ!」

和哉「それは食べるとは言わなによ」

葵「正確には舐めるが正解だね~」

(何だるい? 皆が同情の眼差しを向けてくる)

雄一「まつ飯代を遊びに使い込むお前が悪いな

「しつ仕送りが少ないんだよ!」

姫路「あの、…吉井君、もしよかつたら私がお弁当作つてきましょつか?」

「え? いの姫路さん! ?」

姫路「はつはい明日のお皿でよければですが・・・」

「うん！塩と砂糖以外のものなんて久しぶりだよ！」

島田「・・・ふうん。瑞希って優しいんだね。吉井だけに作つてくるなんて」

姫路「えつあツいえ！／＼／＼その皿さんにも・・・」

和哉「僕たちにも？いいの？」

姫路「はい。嫌じゃなければ」

秀吉「おお、明日の皿は豪華にならうじゃのう」

康太「・・・楽しみ」

雄二「じゃあ明日の皿は姫路に任せるとして。さて話を戻すぞ。試召戦争についてだ」

島田「ねえ坂本。1つ気になつたんだけど、どうしてAでもEでもなくDクラスなの？」

雄二「色々理由はあるんだがEクラスは相手じゃないからだ」

和哉「姫路さんがいるから、正面からやりあつてもEクラスには勝てるだろ？からかな？」

雄二「その通りだ」

島田「それならDクラスとは正面からぶつかると厳しいの？」

雄二「ああ。確実に勝てるとは言えないな」

「なら初めから目標のAクラスを狙おうよ」

雄二「初陣だからな。派手にやつて今後の景気づけにしたいだろ？」

「それに、打倒Aクラスの作戦における必要なプロセスだしな」

「でも、Dクラスに勝てなかつたら意味がないよ」

雄二「負ける訳ないさ、お前らが俺に協力してくれるなら勝てる・・・

・・・・いいか、お前ら。ウチのクラスは・・・最強だ！」

島田「良いわね。面白そうじゃない！」

秀吉「Aクラスの連中を引きずり落としてやるかのー！」

康太「・・・（グツ）」

姫路「がつ頑張ります！」

麗奈「・・・頑張る（優璃たちとは戦いたくないんだけど・・・）」

葵「あ、私、振り分け試験受けなかつたから〇点なんだけど」「和哉「僕も受けてない教科があるんだけど」

雄二「問題ない、開戦と同時に姫路と川崎と一ノ瀬には回復試験に向かつてもらうからな。それじゃあ作戦を話すぞ」

そして、僕達は勝利のため雄二の作戦に耳を傾けた。

第3話&17・作戦会議&18・（後書き）

次回はAクラスの転校生の話。

その次にFクラス対Dクラスの予定です。

第4話&1t ; Aクラスの転校生たち&go+ ; (前書き)

今回はAクラスslideの話です。

Fクラスで自己紹介が行われていること。

優璃 side

職員室にて。

高橋先生「君たちが転校生の3人ですね？」

宗一郎・薫・私「「はい」「」

高橋先生「あとの1人はどこにいますか？」

薫「神楽坂君は親に呼び出されて今、帰省中らしいです」

高橋先生「わかりました。ひとまず、Aクラスに向かいましょうか。」

「

Aクラス前。

高橋先生「それではここで呼ぶまで待っていてください。」

宗一郎・薫・私「「わかりました」「」

Aクラスにて。

高橋先生「皆さん、席について下さい。」

生徒たちが全員席に着いたところで、

高橋先生「皆さん、進級おめでとうございます、2-Aクラスの担任の高橋

洋子です。今年一年間よろしくお願ひします」

高橋先生「皆さん全員にリクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコンは支給されていますか?不備があれば申し出てください」

「・・・シーン・・・・・・・・

高橋先生「特にないようですね、では、自己紹介でも始めましょう

か。 そうですね、転校生からやつてもうこましょつ。 神谷さん、桐谷くん、武内さん入つてきてください。」

3人「「「はい」」」

高橋先生「それではまず、武内さん、自己紹介をお願いします」

薰「武内 薫です 一年間よろしくお願ひします」

A「うちの学園つて女子のレベル高いよな」

A「だよなー」

高橋先生「次は桐谷君、学年次席として自己紹介をお願いします」
宗一郎「桐谷 宗一郎だ。一応、学年次席だ。一年間よろしく・・・

あと、薰に手を出したらコロ（「ホン！」）なんでもありません」

A「男子全員（武内さんには手をだしてはいけない！）

高橋先生「次は神谷さんですね。では、2・Aクラス代表として、自己紹介をお願いします」

A×45「え？」

「えつと、（うう、緊張する・・・）クラス代表になりました神谷優璃です。・・・至らぬ所もあるかもしれません、一年間よろしくお願ひします」

A「てっきり霧島さんが代表だと思つてたよ」

A「つてことは神谷さんと桐谷くんは霧島さんより成績いいんだね・・・」

高橋先生「私語は謹んでください」

A×2「すみません」

高橋先生「それでは、自己紹介の続きを廊下側の人から自己紹介をお願いします」

自己紹介終了後。

「はあ～緊張した～・・・」

薰「優璃は本当に恥ずかしがり屋だね～」

宗一郎「だな」

翔子「・・・神谷、高橋先生が呼んでる」

「あ、はい、わかりました。あと優璃でいいですよ」

翔子「・・・ならそう呼ばせてもらひ」

「とりあえず職員室に行って来ますね」

宗一郎「いってら~」

職員室にて。

「なにか用ですか?」

高橋先生「ええ、午後の授業はFクラス対Dクラスの試合戦争があるので自習になりますので、この日本史の課題プリントをAクラスの生徒に渡しておいてください」

「わかりました」

Aクラスにて。

薰「まさか新学期初日から試合戦争仕掛けてくれるとは思わなかつたなあ」

愛子「だよね~」

「えつと、上藤さんでしたよね?」

愛子「うん、そだよ~、よろしくね優璃ちゃん、薰ちゃん、桐谷君
「う、うん(薰みたいな人ですね・・・)」

宗一郎「よろしく

薰「よろしく~で、そつちの2人は木下さんと久保君だけ?」

優子「ええ、そつよ。といひで、代表は高橋先生と何を話してたの?」

「?」

薰「なんでもFクラスとDクラスが試合戦争をするから午後は自習でそのプリントを渡しておいてだつてさ」

利光「どうじうことだい?振り分け試験直後なんだから、クラスの差は点数の差になるんじゃないのかい。Fクラスに勝ち田なんてな

いだろうに

優子「久保君の言つ通りだし、初日から仕掛けるなんていい迷惑だわ」

薰「おもしろううだしこうじんじやない？私はパソコンで試験戦争の様子でも観てようかな」

愛子「ボクもそうしようかな～」

「・・・・・薰、工藤さん、自習プリント終わってからにしてね」

薰・愛子「え～」

優子「『え～』じゃないわよ愛子、武内さんも」

薰「名前呼び捨てで構わないよ～」

宗一郎「喋る前に課題を終わらしたらどうなんだ？」

薰「ふ～宗ちゃん冷たいなあ」

「で、宗くんはどつちが勝つとみてるの？」

宗一郎「Fクラスの勝つだろうな」

翔子「・・・私もFクラスが勝つと思つ」

愛子・優子・利光「え？ なんで？」

宗くんと翔子の発言に3人は疑問に思つたらしく。

宗一郎「根拠ならあるぞ、去年の学年末試験の結果を高橋先生に見せてもらつたんだが、その時の学年主席が霧島で、学年次席・・・」

利光「姫路さんだね」

宗一郎「そうだ、これほどの成績の持ち主ならAクラス確実のはずだろう？」

優子「たしかにそうね」

愛子「でも、Aクラスにいよいよね？あと1人は転校生らしいし」

美穂「あ、あの～」

利光「ん？ どうかしたのかい？ 佐藤さん」

美穂「今の話なんですが、たしか姫路さん、振り分け試験の最中に高熱で倒れたらしいですよ」

「たしか途中退室は0点だから、多分その人はFクラスにいるね」

愛子「姫路さんがいるならFクラスには勝てるかもね」

宗一郎「まあ、それだけじゃないんだけど」

薰「とりあえず、観戦しようよ」

優子「そうね」

愛子「そだね」

利光「そうだね」

「薰は課題終わらしてからね」

薰「そんな殺生な～・・・って、二つの間にか、課題終わらして
るし・・・」

宗一郎「薰～やつと終わらせてよ～」

薰「保健体育ならすぐ終わるの～・・・」

優璃 side out

オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール（前書き）

今回はAクラスのオリキャラ（転校生）の紹介です。

ところで前書きって何を書けばいいんでしょ？

オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール

名前：桐谷 宗一郎 性別：男
読み：きりや そういちろう

誕生日：5月3日

身長：184cm

体重：66kg

所属クラス：2-A

得意教科：現代社会

苦手教科：保健体育

趣味：モデルガン収集・ゲーム

特技：射撃・ハッキング

外見：黒髪の短髪で顔は地味だがなかなかのイケメン。

常に改造工アガソを携帯している。

性格：ひねくれ者だが、親友たち（優璃、葵、麗奈、和哉、蓮、特
に薫）には心を許している。

親友を傷つける奴にはどんな手段を使ってでも制裁を加える。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
- ・（武内 薫）と2人で同棲している。
- ・明久と同じマンションで部屋は隣同士。
- ・FFF団全員を10分ほどで片付けるほど強い。

*

名前：武内 薫 性別：女

読み：たけうち かおる

誕生日：9月23日

身長：159cm（D）

所属クラス：2 - A

得意教科：保健体育・物理・現代社会

苦手教科：古典・数学・化学

趣味：スポーツ観戦

特技：運動系なら何でも

外見：髪はこげ茶色で髪型はショートボブで美人。

性格：自由奔放で友達思い。

性格的に割と愛子と気が合つ。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・（桐谷 宗一郎）と2人で同棲している。（親公認）
- ・親が建設業の社長をしており、かなりのお金持ち。

*

文月学園におけるクラス設備の奪取・奪還および召喚戦争のルール

- 1 . 原則としてクラス対抗戦とする。各科目担当教師（もしくは学園統治者）の立ち会いにより試験召喚システムが起動し、召喚が可能となる。なお、総合科目勝負は学年主任（もしくは学園統治者）の立会いのもとでのみ可能。

- 2 . 召喚獣は各人一体のみ所有。この召喚獣は、該当科目において最も近い時期に受けたテストの点数に比例した力を持つ。総合科目については各科目最新の点数の和がこれにあたる。

- 3 . 召喚獣が消耗するとその割合に応じて点数も減算され、戦死に至ると0点となり、その戦争を行っている間は補習室にて補習を受講する義務を負う。

4・召喚獣はとどめを刺されて戦死しない限りは、テストを受け直して点数を補充することで何度も回復可能である。

5・相手が召喚獣を呼び出したにも関わらず召喚を行わなかつた場合は戦闘放棄と見なし、戦死者同様に補習室にて戦争終了まで補習を受ける。

6・召喚可能範囲は、担当教師の周囲半径10メートル程度（個人差あり）。

7・戦闘は召喚獣同士で行うこと。召喚者自身の戦闘参加は反則行為として処罰の対象となる。

8・戦争の勝敗は、クラス代表の敗北をもつてのみ決定される。この勝敗に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。

オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール（後書き）

明日にはDクラス対Fクラスの話を投稿する予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068z/>

バカと天才？たちと召喚獣

2011年12月7日23時45分発行